第２回 10/10 「音楽市場進化論 ～レコード産業に再生策はあるか～」

丸山 茂雄（まるやま・しげお）**先生**　　**株式会社２４７Ｍｕｓｉｃ取締役会長**

1941 年生まれ。
1966 年、早稲田大学商学部卒業。
1966 年、㈱読売広告社入社。
1968 年、CBS ソニーレコード入社。
(現 ソニー･ミュージックエンタテインメント)
1978 年、EPIC ソニーレコード設立、企画制作2部次長。
1993 年、ソニー･コンピュータエンタテインメント設立、代表取締役副社長。
1998 年、ソニー･ミュージックエンタテインメント代表取締役社長。
2003 年、㈱2 4 7 Music設立、代表取締役。
2008 年、㈱2 4 7 Music取締役会長。

《講義概要》

株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメントのトップで音楽業界を牽引し、現在は株式会社２４７Music の取締役会長である丸山茂雄氏が、レコード産業の再生について講義を行った。

丸山氏は冒頭で、「資本主義の行き詰まりが音楽産業に影響を与える」という結論を提示した。その後、音楽の歴史やその時代背景について、具体例や裏話を交えながら分かりやすく解説し、音楽産業の移り変わりが社会の流れや技術の進歩と密接に関わり合っていることを示した。

同時に、産業革命以来初めて、人々が技術の進歩を必要としない時代が到来したこと、そしてそれが資本主義の終わりを意味するという考え方を提示。現在の不況が、そのような我々の考え方の変化に関連して起こっているという指摘をした。「レコード産業に再生策はあるか」というテーマは、「資本主義にもう一度チャンスがあるか」と読み替えられると説明し、音楽産業ひいては資本主義社会のあり方について、新たな視点を与える印象的な講義となった。

《受講生の感想》

●今日の丸山先生のお話は、とても興味深く、考えさせえられる講義でした。今まで音楽産業の現状やこれからを考えることはあっても、歴史を学び、時系列から今の課題と行く末を考えることはなかったのでとても参考になりました。先生のおっしゃっていた「資本主義の行きづまりが音楽産業に影響を与える」ということが、講義を通してよく分かりました。　立命館大学・文学部・3 回生

●音楽を聞く環境が変わり、音楽の形態が変わり、また音楽を聞く環境が再び変わるという移り変わりについての話が、その２つの関係について考えたことがなかったのでとても勉強になりました。音楽を受容する私たちがある程度満足してしまったため、バージョンアップが行きづまったという話はその通りであると思いました。

京都橘大学・文化政策学部・3 回生

●ローテクやハイテクの問題ではなく、買わせる意欲を出させることが大事だと思いました。不景気だとただ漠然と感じるのではなくて、理由や歴史をふまえる事を重要だと感じました。

同志社女子大学・表象文化学部・2 回生

●音楽の歴史を軸に、丸山先生のようなプロの人にしかわからないような貴重な話まで伺うことができてよかったです。現在、未来の音楽産業ばかり考えるのではなく、昔からつながる点と線をつなぎながら音楽を知ることで、別の視点も持たなければならないと思いました。

立命館大学・産業社会学部・2 回生

●最近のユーザーがクオリティ重視でなくなりつつあるのかもしれないという話は確かに納得でした。人ってあまりに進化しすぎると、逆にそこに興味・関心がなくなっていく生き物なのかな、と思いました。技術の進歩を執拗に求めなくなったら、その次の産業には何が求められるのか、未来が気になりました。　立命館大学・産業社会学部・2 回生

●大学の夏期休校中に読んだ図書の中に、「現代人は技術の進歩を必要としていない」といった内容が含まれていたのですが、資本主義が終わろうとしているなんていう事まで捉えることが出来なかったので、また新しい視点を得ることが出来て、とても価値のある講義だったなぁと感じます。

立命館大学・産業社会学部・1 回生